

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：保健予防費 目：精神保健費

事業名 就職氷河期世代のひきこもり支援推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 保健医療課 精神保健福祉係 電話番号：058-272-1111(内3314)

E-mail：c11223@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,340 千円 (前年度予算額： 2,340 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,340	2,340	0	0	0	0	0	0	0
要求額	2,340	1,755	0	0	0	0	0	0	585
決定額	2,340	1,755	0	0	0	0	0	0	585

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

内閣府の調査では、若年層^{※1}及び中高年層^{※2}のひきこもりが約115万人を超えと言われ、ひきこもりの長期化と高齢化が社会問題となっている。

ひきこもりの状態が長期化すると、年齢に応じた社会体験の機会が奪われ、自立した生活が困難となり、生活保護者の増加につながる可能性が高い。

岐阜県では平成28年6月に精神保健福祉センター内に「ひきこもり地域支援センター」(以下「センター」という。)を開設し、関係機関と連携した支援を展開しているが、居場所事業に参加されているなど社会参加の試行段階の方に対し、自立に向けた支援が進められていない。

このため、令和4年度から、就職氷河期世代で社会参加の試行段階の方に対して、本人にあった社会参加、就労活動ができるよう相談、アセスメントを行い伴走型支援をしていくことで、より社会参加、就労活動に近づける施策を展開していく。

※1：2015年調査 ※2：2018年調査

(2) 事業内容

■社会参加支援事業

・相談(オンライン含む) ・アセスメント ・伴走型支援事業

(3) 県負担・補助率の考え方

国3/4、県1/4

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	2,340	相談・アセスメント・伴走型支援等
合計	2,340	

決定額の考え方

--

4 参考事項

(1) 国・他県の状況

厚生労働省「地域就職氷河期世代支援加速化交付金交付要綱」に基づき実施。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

ひきこもりに悩む就職氷河期世代の方に対し、本人にあった社会参加ができるようにすることを目的に、社会参加に向けた相談、アセスメント、伴走型支援をしていくことで、社会参加、就労活動につなげていく。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R4)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R6)	達成率
市町村プラットフォームの設置数	33	35	42	42	42	83%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和3年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和4年度	<p>就職氷河期世代で社会参加の試行段階の方に対して、本人にあった社会参加、就労活動ができるよう相談、アセスメントを行い伴走型支援を行った。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない 	
(評価) 3	前年度と比べ、ひきこもり支援の相談件数が増加している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	令和4年6月から開始された事業であるが、対象者の信頼関係を得て支援をすることができており、一定の成果を上げている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている 	
(評価) 1	相談事業、居場所事業などのひきこもり地域支援センター事業に参加された方に、当事業にも参加いただくよう連携を図っている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 ひきこもり支援の相談、居場所事業に参加された方が、自分に適した社会参加、就労活動ができるよう支援していく必要がある。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか ひきこもり支援の相談、居場所事業に参加された方が、自分に適した社会参加、就労活動ができるようにするため、継続して社会参加に向けた相談、アセスメント、を行い、その評価に基づいた伴走型支援をしていく。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由 や期待する効果 など	